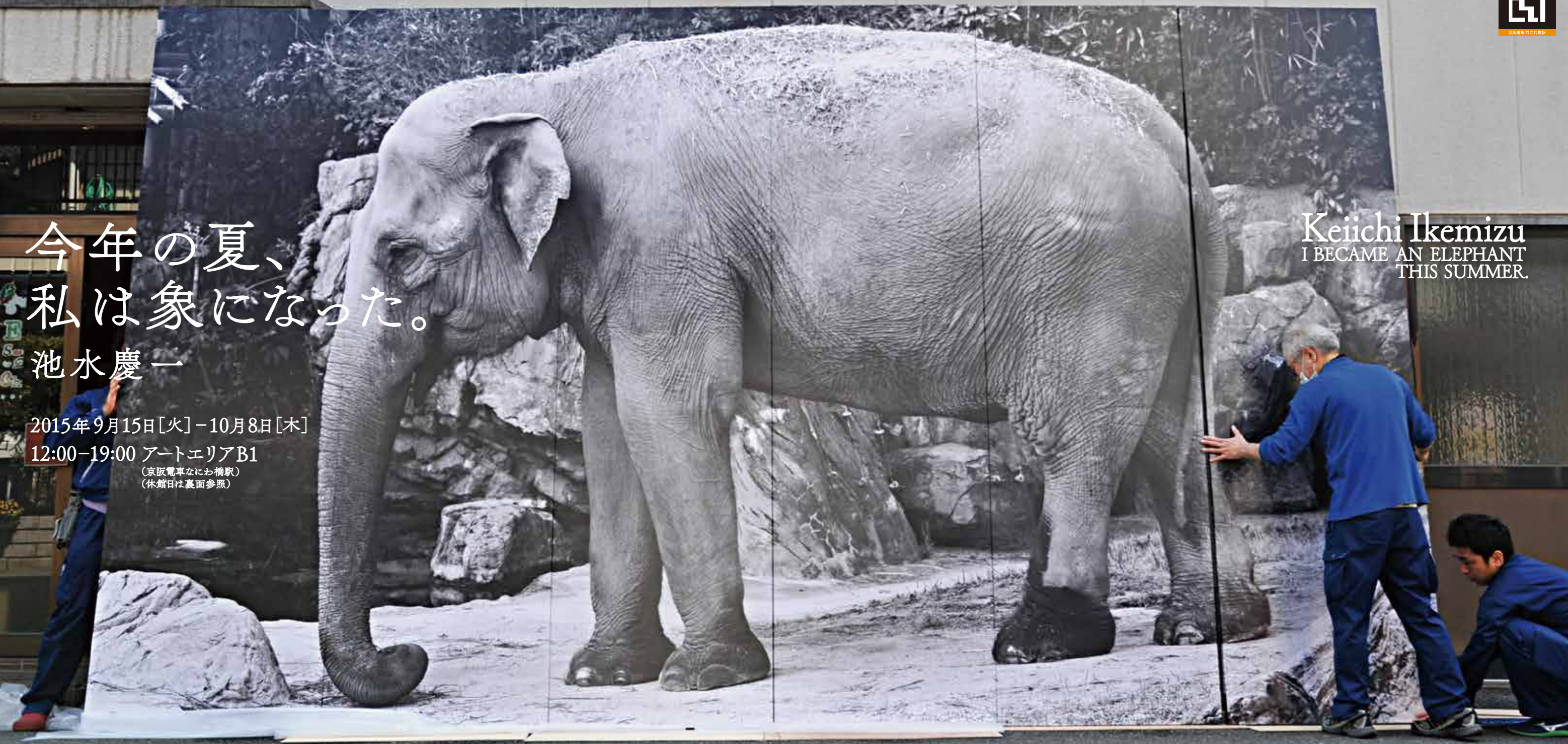


今年の夏、 私は象になった。

池水慶一

2015年9月15日[火] - 10月8日[木]
12:00 - 19:00 アートエリアB1
(京阪電車なにわ橋駅)
(休館日は裏面参照)

Keiichi Ikemizu
I BECAME AN ELEPHANT
THIS SUMMER.



池水慶一(1937年大阪市生まれ)は1960年代初頭から現在に至るまで、関西を中心に活躍してきた現代美術家です。初期の代表作《HOMO SAPIENS》(1965年)では、長良川の河原で鉄格子のついた檻に自ら入るパフォーマンスを行いました。以後、池水の作品やプロジェクトには、象、ラクダ、ゴリラといった動物がモチーフとしてたびたび登場しています。そうした作品の中で池水は、日本の動物園という人工的な環境のうちに生きる動物たちを、私たち人間と同じように生きるひとつの個体として捉え、誠実な眼差しで見つめてきました。また、1967年から現在も活動しているグループ「プレイ」の中心メンバーのひとりとしても知られる池水は、和歌山県串本町の沖合にて卵型の巨大なオブジェを黒潮に放流する《VOYAGE HAPPENING IN AN EGG》(1968年)の計画者でもあります。この行為は、既存の美術の枠組みにとられない試みとして当時大きな注目を浴び、今日まで語り継がれてきました。都市近郊の自然のなかで身体を使って行う彼らの行為は、自然と人間とのかかわりについて、身近な場所から根源的な再考を促すものであったのです。

2011年秋、池水は名古屋市美術館で個展「池水慶一　毛深き人たち——東山動物園のゴリラたち」を開催し、1979年に天王寺動物園で開始したゴリラと対峙する一連の作品を展示しました。アートエリアB1で開催されるこの度の展覧会は、1993年に中津で行った《BLUE CRROSSING》以来、実に22年ぶりの大阪での作品発表となります。また、象をモチーフとして制作された三つの作品を、2013年に制作された写真と合わせて展示する初めての機会となるものです。池水が初めて象の作品を制作した1969年から45年以上が経過しました。象と池水の時間はどのように経過し、何が変わったのでしょうか。あるいは何が変わらなかったのでしょうか。

（展覧会紹介：橋本梓／国立国際美術館主任研究員）

Ikemizu Keiichi (born in Osaka in 1937) is a contemporary artist who has been active, primarily in the Kansai region, since the early 1960s. In his notable early work HOMOSAPIENS (1965), Ikemizu staged a performance in which he locked himself inside an iron cage in a dry bed of the Nagara River. His subsequent works and projects made frequent use of animal motifs such as elephants, camels, and gorillas. In these efforts, Ikemizu seriously considered animals, which live in the artificial environment of a zoo in Japan, as individuals living much like we do. Also known as one of the core members of THE PLAY, a group that has been active since 1967, Ikemizu helped plan VOYAGE HAPPENING IN AN EGG (1968), a work in which a huge egg-shaped object was released into the Kuroshio Current offshore from Kushimoto-cho, Wakayama. This action, which received a great deal of attention at the time as an experiment that transcended the existing boundaries of art, continues to be discussed. Ikemizu’ s actions, using his body in natural settings in the suburbs, urged viewers to fundamentally reexamine the relationship between nature and human beings beginning with familiar places.

In the fall of 2011, Ikemizu held a solo exhibition titled THE HAIRY NEIGHBORS: GORILLAS IN THE HIGASHIYAMA ZOO, NAGOYA at the Nagoya City Art Museum, centering on a series of works in which he came to face-to-face with gorillas, beginning with a visit to Tennoji Zoo in 1979. This exhibition at Art Area B1 marks the first time in 22 years (since BLUE CROSSING, held in Nakatsu in 1993) that Ikemizu is presenting his work in Osaka. It also provides viewers with an opportunity to see three works using elephants as a motif, alongside a group of photographs the artist produced in 2013. Forty-five years have passed since Ikemizu made his first elephant-related work in 1969. What has happened to the elephants and the artist in into interim? What has changed? What has stayed the same?

(Exhibition introduction: Azusa Hashimoto /Curator, The National Museum of Art, Osaka)



HOMO SAPIENS

1965年／岐阜アンデパンダン・アートフェスティバル／長良川河畔 炎天下、長良川河原で終日檻に入る。



象の足音

1977年／京都アンデパンダン展／京都市美術館 象が黒い染料を含んだスポンジを踏み、纏って地面に広げた布の上を歩いた。



鋼管、海へ行く

1994年／ミュージアム・シティ・天神 '94／福岡市・姪浜 鋼管と足場板で組んだ、海水を求めて海岸にたどり着いた生物体をイメージ。会期中、満潮時を期して沖からタグボートで曳き、先端を海に到着させた。着水直後、「鋼管」は青い噴煙を吐いた。

池水慶一 略歴

1937年 大阪生まれ　1960年 大阪学芸大学美術科卒
1964年「檻」/東京アンデパンダン'64展　京都アンデパンダン展
1965年「HOMOSAPIENS」/岐阜アンデパンダン/長良川河畔
1968年「VOYAGE」/和歌山県潮岬沖
実行メンバーと共にグループ<PLAY>を結成
1969年「Eggs in Orange」/第9回現代日本美術展
「今年の夏、私は象になった。あなたは象にならなかったか。」/今日の作家'69展
1973年「にっぽんのラクダ」/京都アンデパンダン展
1977年「象の足音」/京都アンデパンダン展
1979年「毛深き人たち」/京都アンデパンダン展



East Wind, Fine. 東の風、晴れ

1983年／神戸市・六甲アイランド 63枚の古窓からなる<窓>は、当時埋立て中であった六甲アイランド先端の海に接する場所に1か月間立てられた。



猫はどこへいった？

2007年／六本木クロッシング 2007／森美術館 六本木ヒルズ52階の展望台では「内と外」を強烈に意識させられる。美術館の外にドアを置いた。高低差250メートル。果たして見えるか。

Ikemizu website: http://www.ne.jp/asahi/ike/mizu/

1980年「プラスチックランド」/京都アンデパンダン展
1983年「East Wind Fine. 東の風、晴れ」/神戸市・六甲アイランド埋立地
1987年「garden」/国鉄大阪駅コンテナヤード跡地
1989年「<湖>鳥瞰都市の箱庭」/大阪市北区・桜橋東洋ビル
1993年「BLUE CROSSING」/大阪市北区・株式会社ピアス用地
1994年「鋼管、海へ行く」/ミュージアム・シティ・天神/福岡市姪浜
2000年「VIRTUALDOORS」/ミュージアム・シティ・福岡2000
2005年「コンニチハ ヨコハマソウコデス」/横浜トリエンナーレ2005
2007年「猫はどこへいった？」/六本木クロッシング2007
2011年「毛深き人たち-東山動物園のゴリラたち」/名古屋市美術館
2013年「春子」



毛深き人たち

2011年／名古屋市美術館 日本中にゴリラが27頭しか存在しないという現実を知り、全国の動物園のゴリラを撮影し、彼等「毛深き人たち」に対する思索を形にした。

主催：池水慶一

会期：2015年9月15日(火)–10月8日(木) 12:00–19:00

月曜休館／入場無料 ※但し9/21(月・祝)は開館、9/24(木、開館)

会場：アートエリアB1

〒530-0005 大阪市北区中之島1-1-1

TEL: 06-6226-4006

(12:00–19:00／月曜休館 ※祝日の場合翌日)



アクセス：京阪電車中之島線「なにわ橋駅」地下1階 地下鉄「淀屋橋駅」出口②・「北浜駅」出口②から徒歩約5分